

都市化が進む里山、韓国公州市サンシン里

1. 地域の概況

公州市は韓国中心部の忠清南道にあり、古くは百済の首都がおかれていた所である。その公州市、大田市、論山市にまたがって面積 61.148 平方 km の鷄龍山国立公園が指定されている（1968 年）。鷄龍山国立公園は標高 845.1m の主峰と 15 ほどの峰からなる山間地で、サンシン里は公園内に 4 か所ある自然居住地区（Natural Habitat Zone）のひとつである。国立公園規則によって動植物の捕獲・採取は制限されている。



図 韓国公州市

2. サンシン里の人口・経済

1950～60 年代、サンシン里では農作物による現金収入で生計が維持されていた。さらに、周辺に自生するゼンマイ、ワラビ、チナムル等の山菜は持続的に利用され、副収入にあてられていた。その後、農業収益の悪化によって離農者が増加し、現在、耕作地は半分以下に減り、山菜も近隣都市から多くが採取に訪れたため減った。

1992 年のサンシン里の人口は 96 戸、287 名であった。その後、里の人口は減ったが、10 年ほど前から研究都市として知られる近郊の大田市から研究者が移り住むようになり、増加に転じている。現在の人口は 120 戸、約 280 名で、公州市内で唯一増加している里である。内訳は、在来の住民が農家 30 戸、会社員・公務員等 38 戸、これに対し、研究者等の新規居住者は 52 戸と半数近くを占めている。このような新規住民は国立公園内にあるサンシン里の静かな自然環境を求めて移り住んだもので、村人との交流はほとんどみられない。



新規住民の家

3. 地域振興対策

里を活性化するため、在来の住民が中心となって地域振興策を実施している。

- 山菜の植栽：国の農林水産食品部から 1 億ウォンの補助金を受けて、耕作放棄地 3,000 坪にゼンマイ、ナムル、チナムルの植栽を行っている。収穫は来年からだが、収益は作業者の賃金にあてられ、里の労働収益になる予定である。
- 農村体験：他の集落との差別化を図り、サンシン里では陶芸、マダン劇（野外劇）、お祭りに特化した農村体験を行っている。公州市内では 28 集落が農村体験を行っているが、サンシン里は優秀集落に選ばれている。
- フェスティバル：里の基金と公州市の補助金を利用し、陶芸フェスティバルや住民芸術祭を実施している。昨年の陶芸フェスティバル（4 月）には約 1 万人が訪れ、住民芸術祭（8 月）には約 1,500 人が訪れた。

出典：フィールド調査、および、Korea National Park Service, Geryongsan National Park Guidebook